

令和6年度 河川調査の内容について

1. 既存資料収集、整理

- 貸与した相模川の河川環境（主に魚類、生態系）に関する既存の調査結果等を整理
- 公開されている相模川の河川環境（主に魚類、生態系）に関する論文を収集
- 貸与または収集した資料は、年、目的、調査項目、調査時期等を整理

2. 現地踏査

- 平常時の流況、水際環境や砂州の状況を把握
- 堰の構造や取水施設の状況等を現地で確認

3. 河川流況解析

3-1 現況河道モデル作成

- 対象範囲： 1級河川相模川
相模大堰から寒川取水堰下流まで
- 概要： 流況解析に使用する3次元モデル作成
使用するデータは、河川管理者所有の点群データ

3-2 取水地点及び取水量変更に伴う流況解析

- 段階的な取水量変化及び河川流量変化により20パターン解析
- 解析結果として河川流況のうち魚類の生育に関わる項目を整理（流量、流速、水深など）
- 解析結果を補完する現地調査計画を作成

4. 評価

- 流量変化の状況を整理
- 流量変化の所見及び評価

令和7年度の河川調査項目

1. 解析データ補完調査：目的 R6年度に作成した河道モデルの精度向上のための現地調査

ア) 調査項目	①水位測定 ②支川流量観測
イ) 調査範囲	相模大堰～寒川取水堰
ウ) 調査時期	平常時、増水時を考慮し、年3回程度
エ) 調査内容	①水位測定：1km間隔及び支川との合流箇所にて測定 ②支川流量観測：玉川及び永池川の合流点にて観測

2. 魚類調査：目的 魚類（アユ及びアユ以外の漁業権魚種※）への影響評価の基礎資料 ※ ヤマメ、ウグイ、オイカワ、フナ、コイ、ウナギ及びテナガエビ

ア) 生育環境調査 (アユ及びアユ以外の漁業権魚種※)	① 調査範囲	a) アユ：調査範囲で10測線程度 b) アユ以外：既往調査より適地選定（3箇所程度）
	② 調査時期	a) アユ：夏季に2回（6月・9月） b) アユ以外：夏季に1回（9月）
	③ 調査内容	a) アユ ① 生息状況：生息密度、胃内容物、食み跡など ② 生息環境：瀬淵分布、流況、水質、水温、河床など ③ 餌環境：付着藻類 b) アユ以外 ① 生息状況：既往調査結果を活用など ② 生息環境：生息場分布、流況など
イ) 産卵環境調査（アユのみ）	① 調査範囲	調査範囲内の産卵場5か所程度
	② 調査時期	秋季に2回（10月～12月）
	③ 調査内容	産卵実態及び産卵環境（流況・河床）
ウ) 遡上・降下環境調査（アユのみ）	① 調査範囲	既往調査結果を活用
	② 調査時期	
	③ 調査内容	

3. UAV(ドローン)による流況観測調査：目的 河道モデルの精度向上及び魚類影響評価の補完のための調査

- 相模大堰下流 1 km 区間、年2回程度（6～11月）実施
- UAV（ドローン）を用いた動画撮影及びPIV解析による平面流況（流向及び流速）の調査

4. 現地確認及び意見交換：目的 有識者及び河川関係者の視点を反映した調査、解析及び評価を行うための現地確認等

- 有識者及び河川関係者による相模大堰～寒川取水堰間の現地状況の確認と意見交換 概ね2回程度を想定

5. 予測及び評価

- 1. 解析データ補完調査と3. UAV（ドローン）調査を基にした河川の流況変化による改変域等の把握
 - 魚類の産卵や移動への影響
 - 相模大堰及び寒川取水堰の魚道への影響
- 評価は調査範囲の評価とともに、問題箇所を明らかにして要所についても評価する。